



Team石川



小中一貫CSだより第39号

令和元年年6月10日発行 石川小・中学校 文責(松)

15歳の姿：将来への憧れ・夢・希望・目標をもち、意欲的に学習に取り組み自分の考えや思いを豊かに表現できる子ども

地域と連携した小学校大運動会

気温が30度近くに上昇し、日本晴れとなった5月20日(日)、石川地域の一大イベントである「令和」初の小学校大運動会が、スローガン「最後までみんなが主役、勝利の道へ」のもと、行われました。地域町会からお借りしたテントによって、子供たちを熱中症から守ることができました。ありがとうございました。



地域の教育支援～小5総合的な学習の時間



上の写真は5月30日付け東奥日報

5月26日(水)、5年生21人が「総合的な学習の時間」「ひろさき卍学」の一環として田植え体験を、地域団体(乳井みどり保全会)の教育支援を得て行いました。子ども達は田んぼにいるカエルに驚いたりしながら一生懸命取り組みました。また、「米作りで大切なことは何か」という質問をし、学びを深めました。

苗の束を手に田植えに励む児童たち



150平方メートルの水田で

はじめ、環境や農業などに興味を持ってもらおうと毎年、5年生を対象に行っている。青空が広がる絶好の田植え日和となり、約150平方メートルの水田で

米作りを通して食をはじめ、環境や農業などに興味を持ってもらおうと毎年、5年生を対象に行っている。青空が広がる絶好の田植え日和となり、約150平方メートルの水田で

弘前 石川小児童が田植え
泥に苦戦も「楽しい」

弘前市の石川小学校児童21人が田植えに挑んだ。最初は恐る恐るだったが、次第に慣れた手つきになり、30分ほどでもち米「アネコモチ」の苗を植えた。児童たちは稲の成長を観察し、9月には収穫を体験。米は来年2月に石川地区公民館文化祭の「もちつき会」で保護者や地域住民らに振る舞われる。相馬大地君(11)は

「(泥に足を取られ)バランスを取るのが難しかったが、とても楽しかった。できるならまたやりたい。早くお餅を食べたい」と話した。(築城隼人)



右上の記事・写真は5月31日付け陸奥新報

ひろさき卍学～中学校編～

東京のよさと故郷のよさ ～修学旅行振り返りよい～

3年修学旅行の振り返りとして「東京のよさはどういうところだろうか？青森県・弘前市・石川（ふるさと）のよさはどういうところだろうか？」というテーマで振り返りを書きました。ふるさとのよさとして、人の温かさ、豊かな自然、空気のきれいさ、などをあげた生徒が多く、故郷のよさを再認識していました。

郷土の伝統工芸こぎん刺し



3年生は1学期、家庭科で「こぎん刺しの歴史などを学びながら、コースターを作り、郷土の伝統工芸に関心をもつ」をねらいの一つとして、こぎん刺しに取り組んでいます。今年度から「ひろさき卍学」の一環としても実施し、ふるさとへの愛着を深めさせる授業を工夫しています。



石川中学校の歴史を学ぼう



明治14年（1881）、明治天皇が訪れた際に架けられた橋なので「御幸橋」と名付けられたことや明治天皇が休憩した場所に、現在も石碑が建っていることなど、「石川」の歴史についても触れました。

5月16日（木）、中学校校長が、1年生に対して、毎年恒例になっている「石川中学校の歴史」について授業を行いました。「石川中学校はどんな学校なのでしょうか？石川中学校のよさは？」という課題のもとに進めました。生徒からは「台風で小学校が水浸しになった時にお手伝いしてあげたところが石川中学校のよさだと思いました。」「たくさんの歴史があって、石山中学校と交流したり、小学校のピンチにかけつけたり、とても思いやりのある中学校だと思います。」などの感想がありました。

小中合同集団下校訓練



毎年恒例の小中合同集団下校訓練が、5月22日（水）に行われました。中学生がリーダーとなり地域町会ごとに下校しました。8年前の東日本大震災の際は、停電により集団

下校の措置をとり、それ以来、地域町会ごとのグループメンバー（いわゆる校外班）やそのリーダーを確認することもねらいとして実施しています。